

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和5年度第2回高松市国際交流推進協議会
開催日時	令和6年1月26日（金）午後1時30分～2時30分
開催場所	高松市役所 11階 110会議室
議 題	(1) 会長、副会長の選任について (2) 高松市の国際交流事業について (3) その他について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
出席者	<委員> 石原委員、稲井委員、オブリー委員、太良尾委員、時岡委員、長井委員、畑委員、平田委員、三木委員、和田委員 <市> 市長（途中退席）、中川創造都市推進局長、平田都市交流室長、福本都市交流室長補佐
傍聴者	1人（定員5名程度）
担当課及び連絡先	観光交流課 都市交流室（TEL839-2197）

審議経過及び審議結果
<p>議題✓について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互選により、和田委員を会長に選出 ・互選により、時岡委員、平田委員を副会長に選出 ・会議の公開について承認 <p>意見交換</p> <p>○ 牟礼町では、アメリカ エルバートン市と、お互いが石の産地ということで、姉妹都市提携を行っていた。合併に伴い、姉妹都市提携は解消することになったが、引き続き、市民団体として牟礼エルバートン親善委員会が交流を行っている。主な交流としては、毎夏、高校生を相互派遣し約1か月程度一緒に過ごす時間を設けている。その間はホームステイや市内外の訪問をしており、特に、広島には、エルバートン市側から強い要望があり毎年必ず行っている。また、5年に1度、相互に公式訪問を行っており、昨年11月に記念訪問した。1か月前に高松市から公式訪問団がエルバートン市を訪問されていたため、話がスムーズに進み、令和6年度から交流事業が再開することになった。記念事業には、アトランタ総領事も出席いただき、今後の交流支援もお約束いただいた。今年の夏から交流が再開することとなり、新しいことにもチャレンジをしたいと思うので、皆さんにもご協力をいただきたい。</p>

○ トウール市と高松市が姉妹都市という縁で、香川高専もトウール大学と学術交流協定を締結しており、提携以来、学生の相互派遣を行っている。コロナでできなかったこともあるが、今年度から派遣を再開しており、昨年 12 月に学生を派遣した際は、私も同行した。今年度は派遣だけだったが、来年度からは受入れも再開する予定である。受入れの際には、高松市にもご協力をいただきたい。

○ 高松市の元国際交流員だったジュリアさんが、香川県から委嘱され、アンバサダーに就任されており、現在、パリの日本大使館で勤務しながら、香川県や高松市の PR をされている。昨年 11 月に高松市から写真家や伝統工芸職人が訪仏した際にも、パリの市役所ギャラリーで展示会・ワークショップの開催にご尽力いただいた。

○ ロサンゼルス市の香川県人会からの依頼で、香川オリーブガイナーズが初めて外国人選手を野球留学で受け入れている。約 8 か月間、選手として活動されるので市内で見かけたら、ぜひ声をかけてあげてほしい。球団としても史上初の外国人選手受入れだそうで、いろいろわからないこともあるが PR も兼ねて取り組んでいきたいとのこと。

○ パリオリンピックというのは、今年の大きなトピックであり、フランスを中心とする海外に皆様の目を向けていただく大きなチャンスになるのではないかと。個々の親密な交流の積み重ねが大きな潮流になっていくのではないかと。

○ 一般市民として、紹介いただいた内容とすごくギャップを感じる。多文化共生事業として、小学 4 年生にパンフレットを配布されているということだが、自分の子供は記憶にはないということだった。市からの要望が学校に行っているかわからないが、学校で国際交流の情報が公になっていない。私の周りには海外にルーツを持つ子どもが多く、学校との折り合いが合わない部分が多く問題になっている。国際交流に長けている方々から、市民に発信をもっとしていただけたら、先生の理解促進や受入れにつながっていくと思うので、声を大にした情報発信をお願いしたい。

○ コロナ禍以降、多文化共生や外国にルーツがある児童生徒の日本語教育に関わってきたが、今まで自分が国際交流としてやってきたことについて、外国からきた子供たちが困っている現状を目のあたりにして、考え直す機会になった。国際交流と国際理解については、国際交流の担当課だけでなく、教育委員会にも真剣に、現状を勉強していただきたい。もちろん理解している先生方も多いが、全員が理解しているわけではなく、子供たちに国際理解や国際協力を教える以前の問題として、教員の皆さんが、もう少しグローバルに考えて勉強する機会をもっと教育委員会が行うべきじゃないかなと思う。学校の先生方も目の前のことで一生懸命なので、国際理解と国際交流、外国に関係する専門の先生たちを増やす必要があるのではないかと。このパンフレットに関して、もらってもそのままランドセルに入れたり、学校のロッカーの中にくしゃくしゃにして入れている子も多いと思う。渡すだけでなく、総合学習の時間にパンフレットを使って勉強するとか、授業の中に取り入れてこそ、このパンフレットもいきるのかなと思う。せっかく作ったので、教育委員会に働きかけて、ぜひ有効活用してほしい。

●パンフレットに関しては、今は電子データの配布に変えているが、以前は紙媒体で各小学校に4年生の生徒数分、配布を行っていた。昨年度から、学校現場に一人一台の端末が用意され電子化が進んだことや、紙の省資源化を理由に、電子データでの配布に変更した。各学校には周知しているが、学校によって取り扱いが異なるようである。電子に変わったことにより、4年生に限定せず全学年で広く周知することもできるが、逆にスルーしようと思えば簡単にできてしまう。小学4年生は国際交流を授業で取り扱うというタイミングであることから、補助教材として使ってもらふ趣旨で配布しているが、そのことをさらに強く学校現場で周知し、ぜひ授業の中で参考教材として使っていただき、授業の充実につなげてほしいという働きかけをさらに強化していこうと思う。

○現在の高松市在住外国人数はすでに1%を大きく超えている。近い予測では、日本全国で5%は超えてくるのではないかとすると、我々の日常に、旅行者ではない外国人の居住者の方がすぐにいらっしゃるという状況だと思う。そういった時代を迎えるにあたって市民の方々や、私どもが所属する大学でもそうだが、外国の方、或いは外国のオリジンを持つ方が、ほとんどその障壁を感じずに、しっかりと勉強できる、生活できるという環境づくりというのが、極めて重要ではないかと思う。大学の場合、特に事務手続き等で言葉や習慣の壁等があったり、困難に直面するケースも多いが、今はいろんなツールもあり、いろんなことをトライして、彼らに寄り添って共に解決を図っていくという風に、考え方を変えていきたいと思いますという話し合いが進んでいる。

○高松市の外国人比率は全国平均くらいだが、県内では3~4%を超えている地域もあり、そこではあちこちで外国人を見かける。高松市は商店街など中心地に行けばよく見かけるが、全体でみるとそんなに多くはない。ただ、グローバルな視点でやっていかないといけない時代になっていると思う。

○多文化共生のまちづくりということで、非常に細やかな対応されていると感じた。よく言われるのは、なかなかそういった情報へのアクセスが難しく、どこかで情報のリンクが切れていたり、或いは日常生活の中でカバーされてない部分が残ってしまったりする。そういった情報の助けの問題や情報がすべてをしっかりとカバーしているかどうかという検証の問題というのが残っている印象があり、いかに様々な多様性のある困った場面、あるいはいろんなリクエストに対して、どういった情報提供をするのが最適なのかということについても、日々検討を行っている。もちろん、高松市、それから香川県や他の市町村でもやっておられると思うが、国際交流の華やかなところはしっかりととはっきりしつつ、こういったかなり地道な話だと思うが、そこをしっかりとカバーして、情報が、よりアクセスしやすくなるような形を、こういった場で、ご意見、ご議論いただければいいかなと考えている。

※ ○委員 ●事務局